

林業・木質バイオマス発電の成長産業化に向けた研究会
(第2回)

日時 令和2年8月27日(木) 10:00~12:00

場所 農林水産省 北別館8階 林野庁A・B会議室

事務局から資料1を用いて主な論点提起をした上で、全委員から木質バイオマス発電の発電事業としての自立化と木質バイオマス燃料の供給元としての森林の持続可能性の両立に向けた説明を行った。

その後、座長から、次回の研究会までに、これまでの議論、検討結果を反映したとりまとめ案を事務局で準備するとともに、次回の研究会において議論を行うことについて指示があった。

議事概要は、以下のとおり。

■林野庁 長野課長(事務局)

資料1を用いて、本研究会で検討すべき主な論点」について説明。

<発電事業者側>

①コスト低減について、燃料向け木材普及となった際の林業者の森林経営安定化

燃料用の輸送運搬システム、広葉樹や早生樹利活用含めてどのような取り組みを行っていくか

②バイオマスエネルギーの持続可能性については、木質バイオマスの品質について、市場における課題解決流通の実態把握がある。加工コストや輸送距離などライフサイクル GHG の排出にも着目しており適正な輸送運搬距離はどれくらいか森林から発電所までの実態把握の仕組みはいかにあるべきか

③バイオマス発電普及のために、どのような政策支援が必要か、研究会踏まえた施策、経営将来像はいかなるものか。先進事例をどのように横展開していくか

<森林経営側>

①既存の発電事業者の競合

新しい発電事業が増加する中、木質バイオマスの供給に対する懸念があり、著しい影響を与えない発電事業者であることをどのように担保していくか

②森林資源の持続的な利用

地域的にここ数年で利用実績が膨れている中、伐採跡地を放棄したり、それにより森林荒廃を招いたり懸念の声もある中、バイオマスの安定調達は担保されているのだろうか。需要側は、再生可能エネルギーなので、地域の森林資源の持続的な利用につなげるために、どのような取り組みができるか

③木質バイオマス熱利用の推進

これまでも、熱電併給、熱利用については地域内エコシステムの構築や技術開発を支援してきたが、これを更なる普及に向けてどのように供給側と需要側の課題を解決するため、どのような取り組みができるか

■ 森林研究・整備機構 久保山座長

資料2-1を用いて、林産業の競争力強化、もうかる林業の実現、未利用広葉樹林の活用、早成樹の活用、熱利用の拡大の必要性等について説明。

■ 日本木質ペレット協会 岡本委員

資料2-2を用いて、バイオマス燃料の品質安定化、木質バイオマス熱利用の推進、木質バイオマス製造に係る低炭素化とコストの必要性等について説明。

■ 日本製紙連合会 小川委員

資料 2-3 を用いて、製紙産業の立場からみた木質バイオマス発電の発展の方向として、既存の木材利用との競合に係る方策、木質バイオマス燃料を安定供給するための方策、木質バイオマス熱利用の推進、森林産業関連産業としての SDGs への貢献の必要性等について説明。

■ 日本木質バイオマスエネルギー協会 加藤氏（酒井委員代理）

資料 2-4 を用いて、木質バイオマスエネルギー利用の推進と燃料材の効率的な供給システムの構築が重要という視点から、森林資源の状況と燃料材の需給見通し、燃料材供給の課題（A・B材需要の停滞、供給コストの低減、燃料用チップの品質確保、持続性の確保）、発電原価の低減（未利用木質発電）、熱利用の推進等について説明。

■ 全国木材チップ工業連合会 佐合委員

資料 2-5 を用いて、林業・木質バイオマス発電のあるべき姿に関する issue（イシュー）として、燃料材を含む森林資源の持続的な利用について、林業生産コスト低減と輸送コストの圧縮、需給双方の燃料としての品質（特に乾燥）の向上努力、地域を主眼に置いた熱利用の積極的推進等について説明。

■ 全国木材資源リサイクル協会連合会 原氏（藤枝委員代理）

資料 2-6 を用いて、木質バイオマス燃料の流通・利用のあり方と品質向上、成長産業化に向けた横の連携と強調の必要性等について説明。

■ 全国森林組合連合会 村松委員

資料 2-7 を用いて、地域活性化の視点の重要性を説明の上、森林の持続利用と林業収益性向上、木質バイオマス燃料品質、再生林の確実な実施、熱利用の推進の必要性等について説明。

■ バイオマス発電事業者協会 山本委員

資料 2-8 を用いて、稼働中のバイオマス発電所、バイオマス発電所の燃料需要、燃料調達、国産材利用拡大のための課題、森林資源循環利用のための協力等について説明。

■ 北海道立総合研究機構 酒井委員

資料 2-9 を用いて、山【燃料供給側】から見た課題と提案として、林地残材ほか地域資源バイオマスの利用推進、燃料利用を想定した流通構造の模索、持続性担保に向けた研究支援のための情報公開等について説明。

■ 日本エネルギー経済研究所 永富委員

資料 2-10 を用いて、木質バイオマスのエネルギー利用と価値（エネルギー価値、環境価値、経済価値等）について説明。

■ 秋田大学大学院 古林委員

資料 2-11 を用いて、木質バイオマスの課題（キャッシュフロー、持続可能性など）、発電側の低コスト化と山側の利益・持続可能性の両立、地理情報システムの活用、木質バイオマス熱利用の利点・課題等について説明。

■ 岡山県真庭市産業観光部 新田部長

資料3を用いて、「広葉樹に活用による自然エネルギー100%のまちづくり」という視点から、真庭市の林業・木材産業の現状、真庭市の森林・林業政策の考え方・取り組み等について説明。

■ 森林研究・整備機構 久保山座長

詳細な説明等について感謝。事務局において、これまでの議論、検討結果を反映したとりまと案を準備するとともに、委員の皆様には事前に取り纏め案を確認いただいたうえで次回の研究会でその内容についてご議論いただきたい（異議なしの声を確認）。

以上。